

地域医療連携だより

「安心ある暮らし」を支える病院を目指して



康生会武田病院 院長
武田 純

皆様お元気で新年をお迎えのことと存じます。

さて、昨年1月に改組された「患者サポートセンター」もおかげさまで満1年を迎えました。当センターは、患者支援や病床管理に加えて、地域医療連携を円滑に推進することを目指しています。

特に、高齢化が加速する京都市においては、救急搬送や複雑化する医療に適切に応じることが大事です。

昨年、我が国では多くの災害が発生しました。災害拠点となる病院として、まさかの事態に備えることも大事です。

また、本年はオリンピックが開催されるので、京都を訪れる観光客の健康管理も大事な「おもてなし」でしょう。

このように、本年も質の高い医療とともに、いつでも受け入れ可能な環境をさらに整え、地域の「安心ある暮らし」を支える病院であるよう努力いたします。

新任 医師紹介

これまでの経験を活かし 神経疾患の診断・治療で地域医療に貢献

2019年10月1日付で康生会武田病院神経脳血管センターに着任いたしました河本恭裕と申します。

私は1988年に京都大学医学部を卒業し、当時の神経内科教室に入局しました。1年間大病院で研修を受け、大阪・和歌山の医療機関で勤務しました。そして1993年に京都大学大学院への入学で京都に戻ってきました。大学院を卒業後は医員、その後助手（現在の助教）として京都大学医学部附属病院で勤務し、さまざまな神経疾患を経験することが出来ました。

その後は、脳卒中・認知症・パーキンソン病を中心に京都市内での地域医療に取り組んできました。

今後はこれまでの経験を生かして、幅広く神経疾患の診断・治療に取り組む所存ですのでよろしくお願い申し上げます。



神経脳血管センター 部長
河本 恭裕

理念

- ・思いやりの心
- ・地域社会の信頼
- ・職員相互の信頼

基本方針

- ・ブリッジ・ザ・ギャップス
- ・患者さんの権利尊重
- ・信頼の医療に向けて
- ・地球にやさしい環境づくり

環境方針

- ・省資源・省エネルギーの推進
- ・廃棄物の3R（減らす、再使用、再資源化）の推進
- ・安全性・快適性の推進
- ・環境広報活動の推進

新体制で診療スタート

呼吸器センター

内科 部長 臨床研修 部長

永田 一洋



呼吸器内科では、2019年11月より新たな体制で診療を開始しました。

これまで睡眠時無呼吸症候群、呼吸器外来を中心に長年当科の診療を支えて頂いた久野顧問が退職され、新たに小西一央医師をお迎えしました。現在、3人の呼吸器内科医師で

外来・入院診療をご提供しています。

近年、呼吸器疾患分野における治療の進歩は目覚ましく、難治性疾患に対する新たな治療法が次々と開発されています。原発性肺がんでは分子標的薬の登場以来、著しく生存期間が延伸し、免疫チェックポイント阻害剤が登場したことでさらに治療成績の改善が期待されています。難治性喘息に対する生物学的製剤、気管支温熱形成術、特発性肺線維症に対する抗線維化薬などは、従来の治療法では効果を望めなかった患者さんを救うことができます。当科ではエビデンス、ガイドラインに基づき、これらの治療法を患者さんに提供しています。

この他、高齢者であるなどガイドラインに含まれない患者さんも多いですが、こうしたケースでも最適な治療ができるよう多職種で連携しながら診療にあたります。

また呼吸器センターとして、呼吸器外科と密に連携をとっており、肺がん患者さんの気管支鏡診断後の速やかな紹介はもちろんのこと、術後補助化学療法との連携や、気管支鏡で診断できない時の診断依頼など切れ目なく行っています。



新任医師紹介 地域のニーズに対応した医療を目指して

2019年11月1日より呼吸器内科に配属となりました小西一央と申します。2年ほど前に非常勤で外来を担当させて頂いていたのが縁で、今回あらためて当院での診療に携わることになりました。

私は医学部卒業後、東北大学の関連病院などで臨床及び研究に関わっていましたが、博士課程修了後の2010年からは京都・大阪の病院や研究所での勤務を長く経験しています。今回、再び京都市内での臨床に携われることを嬉しく思っています。

当院はJR京都駅前の便利な立地にあることから外国の方を含めた旅行者の対応が多い一方で、古くから京都市内にお住まいの方々へプライマリ・ケアを提供する機関としての位置付けもあります。

さらに呼吸器専門領域において肺がんや間質性肺炎など、難治性疾患の診療に当たる責務があります。私もチームの一員として地域のニーズに対応した医療を提供できれば幸甚に存じます。皆様のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



呼吸器センター 内科 医長
小西 一央

嚥下障害に早期介入

消化器センター

医長 碓井 文隆

1. 前処置



- ①鼻の充血や腫れをとって通りを良くするための薬を鼻から注入する
- ②合成樹脂製の柔らかいスティックを挿入して鼻腔を広げる

2. 検査



- ③座った状態で鼻から細い内視鏡 (5.4mm) を挿入しながら、喉の動きや着色水 / 食物の飲み込みの状態を評価する (およそ 2-5 分程度)

超高齢社会の昨今において、高齢者における嚥下障害が原因となる誤嚥性肺炎が問題となっています。当院では、嚥下障害に対して早期介入を行うために、外来にて嚥下機能評価と嚥下リハビリを行っています。

嚥下機能の評価にあたっては、嚥下内視鏡検査 (Videoendoscopic examination of swallowing: 以下 V E と略します) を行います。V E は経鼻内視鏡を鼻から挿入した状態で、着色した水やゼリーを飲み込んだ際の、嚥下反射を観察する検査です。検査の対象となる方は、食事時にむせがある方、食べ物を飲み込みにくい方、また、胃ろう造設後の方で経口での摂食の可否を評価したい方などとなっています。

早期に介入することで誤嚥性肺炎の予防、二次的合併症のリスク低減、栄養改善などの効果が期待されます。軽い嚥下障害が疑われる方から、外来で嚥下リハビリをご希望の方、胃ろう栄養と経口摂食の併用をお考えの方まで、飲み込みにお困りの方の嚥下状態の評価と、外来での嚥下リハビリを施行させていただきます。



嚥下内視鏡外来診療表

	月	火	水	木	金	土
診察 (16時~)					○	
検査 (9時~12時)	○	○	○	△		△

誤嚥性肺炎パス

呼吸器内科ワーキンググループでは「高齢の誤嚥性肺炎患者の在宅や施設への退院と継続した誤嚥予防」を目的に、誤嚥性肺炎クリティカルパス (14 日間) を開始しました。医師による抗生剤投与や検査はもちろん、入院翌日からの嚥下評価、絶食期間からの食事開始サポートや食事形態の検討、ADL (日常生活動作) 低下やせん妄予防のための訓練、服薬状況の確認など、同パスにより適切な多職種介入のさらなる促進につなげていきます。

また、社会福祉士やケアマネジャーと退院前カンファレンスを定期開催し、継続した誤嚥予防ケアや退院後の療養環境を見据えた介入の質を向上させるなど、関係職が「One Team」となってお一人おひとりの患者さんを支えています。



R S T (Respiratory Support Team) の活動

R S Tとは「呼吸ケアサポートチーム」のことです。当院のR S Tは、医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士が所属し、人工呼吸器など呼吸療法を行っている患者さんを対象に、主治医や病棟スタッフと連携しながら、診療サポートを行っています。

具体的には、週一回の院内ラウンドを通じて患者さんの状態を把握し、多職種がそれぞれの専門的知識を持ち寄って意見を出し合い、「より良い呼吸療法の提供」を目指します。

さらには、安全管理の質の向上や呼吸療法の早期離脱に向け、主治医・病棟看護師への指導及びコンサルテーションも行います。今後も新しい知識の普及やより良い安全管理へとつなげるため、チーム一丸となって努力を続けてまいります。



N S T (Nutrition Support Team) の活動

当院では現在週4回、N S TカンファレンスとN S T回診を実施しています。前年度の平均回診件数は107件/月でした。N S Tは医師、看護師、薬剤師、管理栄養士などが一つのチームとなって患者さんに最適な栄養支援を行います。対象となるのは、主治医はじめ、N S Tのメンバーや他のスタッフが必要だと判断したケースのほか、体重・アルブミン・褥瘡などからスクリーニングし、

栄養状態が不良と評価された方です。

介入後は、適切な栄養管理がなされているかどうか、各症例に最もふさわしい栄養管理法の指導や提案を行い、患者さんに関わるスタッフと管理栄養士が情報交換しあいながら、栄養状態の改善やQOLの向上、早期退院を目指します。

また月に一度、院内の全スタッフを対象に、栄養療法に関する勉強会を開催しています。



受付時間

月曜日～金曜日 8:30～19:00 土曜日 8:30～17:00

※日曜日・祝日・祭日・年末年始はお休みさせていただいております。

医療機関専用

TEL(075)361-1352 (直通)

FAX(075)361-1337 (直通)

※患者サポートセンター受付時間外につきましては医事部(医療事務)にて対応させていただいております

TEL(075)361-1351 (代表) FAX(075)361-1268 (医事部専用)

患者
サポート
センター